

● 明けましておめでとうございます.....	1
● 前立腺肥大症に対するレーザー手術.....	2
● 『看護外来』の紹介.....	3
● 第2回山陰労災病院防災机上訓練.....	4
● 脳卒中リハビリテーション.....	5
● 連携医療機関のご紹介.....	6
● 令和元年度 病病・病診連携サービス実態調査について.....	7
● 退任医師・イベントのご案内.....	8

明けましておめでとうございます

院長 豊島 良太



年が明け、令和2年になりました。西部医師会の皆さまには、ご家族やご友人と良いお正月をお過ごしになったこととお慶び申し上げます。

ご承知のように、本院では新しい建物の工事中です。今、建設中の部分は最終的に完成する病院全体の約2/3に相当します（図）。一般外来や救急外来、画像センターを1階に、一般外来と検査センターを2階に、手術室とHCUを3階に、そして4～6階を病棟とする計画です。図の左の病院の西側に救急外来を移し、診察室を増やします。HCUも増床し、急性期医療の機能の充実を図っています。

工事は昨年の6月の起工から順調に進み、今年の12月末には完成予定です。そして、来年の初めには引っ越しをして、運用する予定にしています。これにより、患者さんの療養環境や医療機能は格段に向上しますので、これまで以上に地域医療に貢献できるものと思っています。

続いて行う工事は、新病棟の東に隣接する古い建物を壊してから始めます。そのため、工期は長く、すべてが完成するまでには患者さんにご不便やご迷惑をおかけしますことをご理解いただきますようお願い申し上げます。

一部ですが、労災病院が57年ぶりに新しくなることにご期待いただきますようお願い申し上げますとともに、今年が皆さまにとりまして、良い年になりますことを心よりお祈り申し上げます。

西南から見た完成予想図



建物の西側2/3（点線より左部分）が今年の暮れに完成予定です。



前立腺肥大症に対するレーザー手術

泌尿器科部長 門脇 浩幸



前立腺といえば昨今は専ら癌の話題が殆どですが、男性の排尿障害の主因である前立腺肥大症の手術療法について当科で施行しているレーザー手術について報告いたします。

α ブロッカーの開発に始まり前立腺肥大症の薬物療法は目覚ましい進歩を遂げてきました。その一方で手術療法の対象となる症例は減少してきています。薬物療法の進歩や高齢化などにより手術療法の対象となる症例の腫大腺腫は大きくなっています。以前は前立腺体積 100ml を超えるような巨大な前立腺に遭遇することはまれでしたが、最近は珍しいことではありません。

前立腺肥大症に対する手術療法は経尿道的前立腺切除術（以下 TURP）が現在でも標準術式であり当科でも長らく施行してきました。しかし大きな前立腺に対しては出血のリスクが高くなりまた腺腫の残存の懸念が常にありました。二の足を踏むような症例に対しては開腹手術で対応していた場合もありました。しかし低侵襲手術が求められる昨今、開腹手術の出る幕はありません。

このジレンマを解決してくれた術式がホルミウムレーザー前立腺核出術（以下 HoLEP）です。

HoLEP は内視鏡を尿道から前立腺に通し、レーザーファイバーを前立腺の内腺と外腺の境界に挿入して行います。ホルミウム YAG レーザーのレーザー光を照射し、肥大した内腺（腺腫）を外腺から切り離します（核出）。膀胱内へ核出された腺腫はモーセレーターで細切・吸引しながら摘出します。一方、TURP は腺腫を電気メスで削り取る手術であるため、削る（切開）操作と止血（凝固）操作を交互に行わなくてはならないため、大きな前立腺肥大においてはある程度の出血は避けることができませんでした。ホルミウム YAG レーザーは切開と凝固が同時にでき、結果として術中の出血が少ないという利点があります。

当科では高出力レーザー発生装置が導入された 2013 年 10 月より TURP に代わり HoLEP を開始しました。現在まで表に示すように約 250 例に施行しています。開始当初は手技に不慣れなため TURP と比較して手術に時間を要し出血のコントロールがつかないため TURP に conversion した症例もありましたが、症例を重ねるにつれ手術時間は短縮し 100ml を超える巨大前立腺にもストレスなく対応が可能となりました。HoLEP は TURP と比較して明らかに出血が少なく、術後の回復が早く在院日数も短くなっています。

前立腺肥大症に対して薬物療法を施行している症例でお困りの方があればご相談ください。HoLEP に限らず例外もありますが歩ける、食べられる、話せる方なら手術は可能であると考えています。

また、前立腺肥大症だけでなく、泌尿器疾患全般にわたり何かお困りのことがあればご相談ください。よろしくお願いいたします。

表 当科における HoLEP 施行症例数

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	計
症例数	8	22	35	49	46	49	52	261



『看護外来』の紹介

看護副部長 岡本 文枝



山陰労災病院看護部は、病院理念のキーワード「信頼・優しさ・安全」のもと、患者さんに丁寧な心温まる看護の提供をめざしています。この度令和元年11月より、従来から実施していた糖尿病フットケア外来と慢性腎臓病看護外来、助産外来に加えて新たに4つの分野を加え、『看護外来』としてスタートしています。

看護外来とは、その分野において専門的な知識・技術を持った看護師が、患者や家族等からの相談を受け指導やケアを行う外来です。当院には現在、10分野12名の認定看護師や各種学会認定資格を持つ看護師等が複数在籍しています。医師による外来診療に加え、看護師が医師と連携をとりながら日常生活上の相談に応じアドバイスや情報提供を行うことで、医師の外来診療時間の短縮（医師の負担軽減）、患者のQOLの向上に寄与すると共に地域医療への貢献を考えています。

◇看護外来の一覧（主な内容）

*原則、当院で治療を受けている患者さんを対象に医師からの紹介を受けて予約制で行っています。

 看護外来	糖尿病フットケア外来 糖尿病看護認定看護師 糖尿病療養指導士 フットケア指導士 木曜日 9:00～16:00 ★一人ひとりの足トラブルへの対処 ★足を守るための生活指導 ★爪切り、胼胝処置、足浴 ★義肢装具士紹介、インソールの提案	慢性腎臓病看護外来 透析看護認定看護師 月・木曜日 9:30～15:00 金曜日 9:30～12:30 ★自己管理方法など療養生活についての説明 ★腎代替療法などが必要な患者への治療法や治療後の生活、医療費などについて分かりやすい説明
ストーマ外来 皮膚・排泄ケア認定看護師 水曜日 13:00～15:00 ★ストーマ装具能力適正な選定を行い、正しい使用方法の説明や指導 ★ストーマ周囲のスキントラブルの対処 ★日常生活の様々な問題への対処 ★社会保障制度の使い方、手続き方法	脳卒中看護外来 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 第4金曜日 13:00～15:00 ★脳卒中に関する心配事や不安のある方への相談 ★血圧測定、自宅での血圧測定の状況についての確認や測定方法の指導	心不全看護外来 心臓リハビリテーション指導士 金曜日 13:00～15:00 ★心不全手帳の活用についての説明 ★心不全手帳の確認と、自宅での生活（内服、水分塩分管理など）についての相談 
助産外来 アドバンス助産師 火・木曜日 13:00～16:00 ★母乳分泌・乳房チェック ★母乳量測定 ★児の体重測定 退院日からの 体重増加率チェック ★ミノルタチェック ★育児相談 	手術前看護外来 手術室看護師 月～金曜日 9:00～12:00 ★手術前オリエンテーション ★禁煙の説明 ★口腔内観察と口腔ケア指導 	

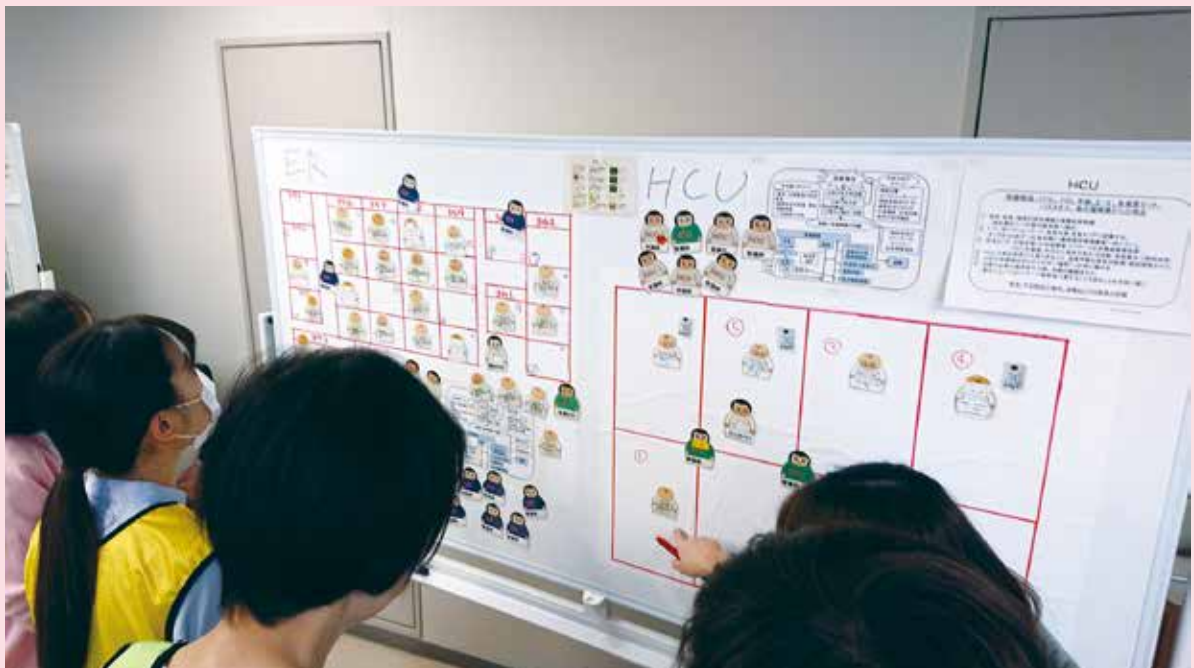
第2回山陰労災病院防災机上訓練（エマルゴトレーニングシステム）

防災管理委員会委員長 野坂 仁愛



ここ近年必ず災害（地震、洪水、大事故など）がどこかで起こっていることは周知のとおりであります。ひとたび災害が発生すると傷病者の発生は勿論ですが、病院そのものの機能が脅かされることもあります。そのような場合病院としてどう対応するのか？必ず、病院として期待されるものがあり、常に準備しておかなくてはならないと考えます。そこで山陰労災病院防災管理委員会として、防災への準備を始めました。まずは西部地区の災害拠点病院である鳥取大学で行われた災害訓練を2017年から見学させていただきました。大学では毎年、ひと月からふた月に跨がり、全職種を対象に座学、机上訓練、実地訓練を行っており、2017年は机上訓練を見学させていただきました。

この訓練はスウェーデン生まれの机上教育システムで多数傷病者発生時対応シミュレーションです。机上訓練、名前だけ見ますと机の上でやるような感じがしますが、実際は、大きな会議室に災害本部をはじめとし、患者受け入れトリアージエリア、治療エリア、中央手術部、各病棟（ICU、一般病棟）、中央放射線部などを区分け設置し、そこにトレーニング専用のマグネット人形を使用し、これらをホワイトボード上で移動させます。これらの人形には条件が設定（手術が必要で4時間かかる、酸素投与が必要、胸腔ドレナージが必要2時間かかるなど）されており、その条件に従い、各部署が、限られた資源の中で、最大限の対応を行う、トレーニングです。実地訓練とまではいきませんが、かなり臨場感あふれ、災害時に実際にどのように対応するのかを実感できる訓練でした。よし先ずはこれだと思い、2018年10月3日に第1回の労災病院での机上訓練を計画。そこには鳥取大学救急災害医学分野本間教授をはじめとする恩部救急災害認定Ns、鳥取大学救急災害科の皆さん、横浜労災病院からは災害専門医師中森先生の協力を得て開催することができました。この訓練を機に当院のマニュアルの改訂更新を行い、さらに職員のさらなる気運の高まりを感じることができました。そして2019年12月10日第2回目の山陰労災病院災害机上訓練を開催いたしました。病院関係者、他病院からの見学も含めると70名もの参加となり昨年以上に大いに盛り上がりしました。特に山陰労災病院関係者の熱気、災害時に何とかしてあげたいという心意気を感じとられた訓練となりました。今後も定期的な開催を目指し、災害に強い山陰労災病院、地域に期待される山陰労災病院となりますよう努力してまいりたいと思います。皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。





当院は鳥取県西部地区において、多くの脳卒中患者さんの急性期の治療やケアを行っています。急激に発症した症状がより悪化することで、今まで行っていた生活が難しくなり、自宅での生活が困難になる場合があります。また、脳卒中は発病前の生活を続けることで、再発率が高いことも問題点として挙げられます。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の役割は、脳卒中の予防や再発予防、発症後の重篤化の回避、多職種連携による生活再構築に向けてのプロセス管理を行うことを期待されています。脳卒中に関わる看護実践モデルとして、日々看護を行い看護の質の向上に努めています。

現在、脳卒中発症後の重篤回避として、病状悪化や合併症を見逃さないための観察とケア、廃用性症候群の予防ケアに取り組んでいます。同時に、意識障害や運動麻痺、高次脳機能障害などにより日常生活動作に制限が生じる可能性がある時には、患者さんやご家族自身が望む、あるいは達成可能なセルフケアに向けて、残存機能を最大限に生かして「できる」を引き出し、「その人らしさ」を活かした生活に向かえるように援助を行っています。例えば、食べる能力、起き上がりや歩くなどの動作能力、コミュニケーションの能力などを患者さんの示す症状などから確認し、その状況に応じて必要な援助内容を検討し実施しています。また、自宅へ退院される患者さんへは、再発予防対策として、病棟と協働し「脳卒中克服十か条」を基に作成した退院指導パンフレットを使用し、自宅生活でのアドバイスなどを行っています。

脳卒中に関わる看護師の教育と指導を目的として、病態や症状を理解し、より良い看護の実践のために、院内で昨年度より脳卒中リハビリテーション看護「脳神経系のフィジカルアセスメント」「意識障害・片麻痺・高次脳機能障害のある方の日常生活援助方法」「脳卒中再発予防のための退院指導」などの研修会を年4回開催しております。また、院内の認定活動として脳卒中地域連携パスや評価スケールの統一化などを進め、地域の病院間連携をシームレスに進めることができるように、問題点などを抽出し院内ルールの整備に努めています。

今年度より脳卒中看護外来を、脳外科外来で開催しております。脳卒中後の生活についての不安がある方、自宅での生活やご家族の介護に困っている方、再発が心配な方などを対象として、後遺症による不安の軽減や再発予防を目的とし血圧測定や日常生活指導などを実施しています。また、地域の方を対象とした病院主催の健康講話や労災病院展で、「脳卒中予防十か条」を基に作成したパンフレットを用いた脳卒中予防の啓発活動も行っています。

今後は活動を広げ、他施設との連携や研修会開催なども検討していきたいと思います。現在当院には脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は2名在籍しております。脳卒中に関わる看護やケアに対するお悩みや困りごと、研修会の開催希望などがありましたら、お気軽にご相談ください。今後ともよろしくお願いいたします。

脳卒中克服十か条（日本脳卒中協会 HP より）

1. 生活習慣 : 自己管理 防ぐあなたの 脳卒中
2. 学ぶ : 知る学ぶ 再発防ぐ 道しるべ
3. 服薬 : やめないで あなたを守る その薬
4. かかりつけ医 : 迷ったら すぐに相談 かかりつけ
5. 肺炎 : 侮るな 肺炎あなたの 命取り
6. リハビリテーション : リハビリの コツはコツコツ 根気よく
7. 社会参加 : 社会との 絆忘れず 外に出て
8. 後遺症 : 支えあい 克服しよう 後遺症
9. 社会福祉制度 : 一人じゃない 福祉制度の 活用を
10. 再発時対応 : 再発か? 迷わずすぐに 救急車

脳卒中予防十か条（日本脳卒中協会 HP より）

1. 手始めに **高血圧**から 治しましょう
2. **糖尿病** 放っておいたら 悔い残る
3. **不整脈** 見つかれば すぐ受診
4. 予防には **タバコを止める** 意思を持って
5. **アルコール** 控えめは薬 過ぎれば毒
6. 高すぎる **コレステロール**も 見逃すな
7. お食事の **塩分・脂肪** 控えめに
8. 体力に 合った**運動** 続けよう
9. 万病の 引き金になる **太りすぎ**
10. 脳卒中 起きたらすぐに 病院へ

医療法人 川田内科医院

院長 川田 秀一 副院長 川田壮一郎

診療科目：内科 循環器内科 消化器内科 小児科

住 所：〒683-0001 米子市皆生温泉1丁目4-1

Tel 0859-32-1878 Fax 0859-32-1978

当院は、昭和60年に当地にて開院し、以後30年以上にわたって成人から小児まで主に内科系全般にわたって診療を行ってきました。

山陰労災病院と隣にあり、通常速度の徒歩で10分以内、車では裏道を通れば数分で到着する距離にあります。救急車もすぐに到着します。このこともあり、昼夜に関係なくまた内科をはじめとしてそれ以外の診療科に対する急患対応依頼や検査目的での紹介などで大変お世話になり、感謝しています。今後ともよろしくお願いいたします。（川田 秀一）

研修医の時および2017年10月から2019年3月までの間、山陰労災病院の消化器内科で勤務させていただき、様々なことを学ばせていただきました。お世話になりました先生方、スタッフ、職員の方々には感謝しかありません。2019年6月より当院副院長として勤務し、専門である内視鏡検査や超音波検査などの消化器領域はもちろん、かかりつけ医として、生活習慣病や循環器・呼吸器疾患、小児など内科系全般にわたって診ることができるよう日々精進しております。

山陰労災病院は、頻繁に紹介させていただいておりませんが、いつも快く紹介を受けてくださり、とてもありがたいと思っています。これからも引き続きご指導いただけましたら幸いです。今後とも密に連携をとらせていただき、この地域の医療に貢献できればと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。（川田壮一郎）





令和元年度 病病・病診連携サービス実態調査について

医事課長 成田 敏貴



アンケートの実施に際しましては、多くの先生方から貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。

今年度の「病病・病診連携サービス実態調査」の結果についてお知らせします。

調査は当院に紹介実績のあった関係医療機関を対象に、各項目を“重視度”“満足度”に分けて無記名のアンケート方式で実施しました。(回収率 33.1%回収件数 88 件／配付件数 266 件)

●重視度の高かった設問

- 1 治療レベル
- 2 診断レベル
- 3 手術レベル

●満足度の高かった設問

- 1 手術レベル
- 2 治療レベル
- 3 検査レベル

●満足度が重視度を下回っている設問

- 1 受入窓口の対応の迅速度
- 2 緊急時・時間外の受け入れ体制
- 3 紹介患者さんの最終報告

【結果】

今年度から、紹介患者様の報告にあたり、院内ルールを設けて取り組んできたこともあり、一部の設問を除き昨年度より“重視度”と“満足度”の乖離は小さくなりました。ただし「受入窓口の対応の迅速度」「緊急時・時間外の受け入れ体制」については継続して“満足度”が“重視度”を大きく下回る結果となりました。

また、自由記載欄にはいつも迅速な対応をしていただき助かっているとお褒めの言葉があった半面、「電話だけでなく、FAXが繋がらない時が多い。回線を増やしてほしい。」「電話での依頼時、外来の看護師、医師の会話がこちらに聞こえてくることが多い。」などのご意見をいただきました。

いただいたご意見・ご要望を参考に、病病・病診連携システムの向上に努めて参りますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年度 病病・病診連携サービス実態調査 総括表

大項目	小項目	重視度 (%)	満足度 (%)	乖離 (P)
当院の病診連携システムについて	全体システムのわかりやすさ	68.2	64.1	△ 4
	紹介のしやすさ	89.5	80.3	△ 9
受付窓口の対応について	担当者の対応・言葉遣い等	68.6	63.6	△ 5
	対応の迅速度	88.4	68.4	△ 20
当院の医療情報提供について	設置されている医療機器の情報	59.8	52.1	△ 8
	標榜されている診療科についての情報	73.5	62.2	△ 11
	医師の専門分野及び外来担当日	81.9	75.3	△ 7
	医師交代の状況	45.1	47.2	2
	検査・画像診断の空き状況	42.9	33.8	△ 9
	空床の状況	43.9	35.8	△ 8
治療水準の満足度について	診断レベル	95.4	85.7	△ 10
	治療レベル	96.6	88.3	△ 8
	手術レベル	94.2	89.3	△ 5
	検査レベル	90.7	86.8	△ 4
	撮影レベル	84.7	84	△ 1
	画像診断レベル	87.1	85.3	△ 2
	リハビリテーションレベル	62.4	51.5	△ 11
診断結果等の報告状況について	報告書が届くまでの時間	73.3	76.6	3
	報告書の内容・わかりやすさ	82.4	81.8	△ 1
	紹介患者さんの最終報告	84.5	72.4	△ 12
	開業されている先生方との症例検討会	28.9	45.8	17
診療時間帯について	診療時間帯、診療日等	57.6	56.6	△ 1
緊急時・時間外のシステムについて	受け入れ体制	82.4	62.7	△ 20
	担当者の対応、言葉遣い等	67.5	61.6	△ 6
逆紹介について	紹介患者さんの逆紹介について	63.2	58.4	△ 5

10月31日付

●耳鼻咽喉科副部長

平 憲吉郎

12月31日付

●麻酔科医師

播 本 由香利

イベントのご案内

第8回世界腎臓デーin米子

日 時 令和2年3月15日（日）12時00分～16時00分

場 所 米子コンベンションセンター

内 容 ・イベント展示（1階情報プラザ）

腎臓病に関する簡易検査（腎臓エコー・尿検査・味覚検査。血圧測定など）

医療・健康相談、腎臓病クイズなど

・講演会（6階第7会議室：13時15分～15時00分）

①慢性腎臓病（CKD）とは？ 山陰労災病院 第三腎臓内科部長 山本 直

②糖尿病と腎臓病 山陰労災病院 糖尿病・代謝内科部長 宮本 美香

③腎臓病と高血圧 山陰労災病院 第三循環器科部長 水田 栄之助

④慢性（糸球体）腎炎とは？ 山陰労災病院 小児科部長 林 篤

その他 看護師・薬剤師・管理栄養士等による講演

※参加費無料！多数の方々のご来場をお待ちしております。

※通院中の患者さん等に御紹介いただければ幸いです。

